



福島市長が田植え農家を激励

田植え作業が本格化した5月20日、福島市長はじめ県農業普及振興室の職員や農協関係者らが車力地区の水田を巡回して田植え農家を激励しました。これは、高品質の米作りを推進するため、毎年田植えの時期に行われています。

この日、福島市長は6.7㌶に「まっしぐら」などを作付する工藤大志さんの水田を訪れ、田植えの作業状況を確認。工藤さんが「低温の影響で発芽が遅く、苗の生育状況はあまり良くない。今後の天候回復と気温上昇を期待しています」と話すと、福島市長は「水管理など低温に備えた栽培管理の徹底に励んでいただきたい」と呼び掛けていました。



田植えの作業状況を説明する工藤さん（中）



パトロール隊の出動を見送るJUMPチームら

安全・安心のまちづくりを誓う

「春の安全・安心まちづくり推進大会」が4月22日、松の館で開催され、防犯ボランティア団体や警察官ら約70人が、安心して暮らせるまちづくりを誓いました。この日は、市防犯指導隊総隊長の手嶋成信さんが「安全で安心して暮らせる地域社会の確立を目指し、街頭犯罪等を抑止する活動を推進します」と決意表明。JUMPチームを代表して菊地優太君（木造高3年）が「非行防止やいじめ撲滅のため自分たちの力を発揮し、明るい社会づくりに貢献することを決意します」と宣言しました。大会終了後には、パトカーを先頭に自主防犯パトロール隊が青色回転灯を装着した車両で市内を巡回しました。



事故現場で道路を診断する関係者

交通事故防止へ道路診断

4月22日、柏下古川の県道で発生した交通死亡事故（4月15日）を受け、再発防止のため、つがる警察署、市、西北地域県民局など関係機関が事故現場の道路診断を行いました。

この日は、同警察署の木村交通課長が、軽乗用車が対向車線にはみ出し正面衝突した事故状況を説明。カーブの見通しや道路の勾配などを確認した参加者からは「センターラインをはみ出した際に音が出る対策があればよかったかもしれない」などの意見が出され、上田署長は「事故のないよう街頭指導などを継続しながら、今後の対策を検討します」と話していました。



日本人の心のあり方について講演する玄侑さん

作家・玄侑宗久さん講演

5月13日、松の館で芥川賞作家の玄侑宗久氏の講演会が行われ、市内外から約500人が参加しました。これは、絵本の読み聞かせ活動を行うおはなしサークル「おひさま」（松木文子会長）の10周年記念イベントとして開催されたものです。

玄侑さんは福島県出身の僧侶。講演では東日本大震災に触れ、「約2万の方が亡くなつたと言わされているが、一人一人の人間の死にそれぞれの物語があり、それが2万回起つた出来事と受け止めてほしい」と述べました。また、多様性を重んじる日本人独特の物事の捉え方についてユーモアを交えながら語り、参加者は熱心に耳を傾けていました。



東日本選抜中学校相撲大会で好成績

5月12日、秋田県立武道館で開催された「第10回東日本選抜中学校相撲大会」団体の部で木造中学校が第3位、個人の部で越後谷知樹くん（木造中3年）が優勝を果たし、5月21日、福島市長へ報告に訪れました。

大会には東北6県から24校が出場。木造中は団体準々決勝で西根中（岩手）に3対0で勝ちましたが、準決勝で栗駒中（宮城県）に2対1で敗れ3位となりました。大将を務めた田中界渡君（同2年）は「先輩や監督の励ましがあって頑張れただけど、3位は悔しい」と振り返り、個人優勝を遂げた越後谷君は「一番一番集中して自分から攻める相撲が取れた。優勝できて嬉しい」と話していました。



(左から) 田中界渡君、石岡弥輝也君、越後谷知樹君、長谷川謙司君、澤田佑太君



瞬時に札を取り合う選手たち

畠の上で白熱の戦い

「第8回全国高校生かるたグランプリinつがる市」が5月4、5日、松の館で行われ、「畠の上の格闘技」とも言われる静から動への一瞬の真剣勝負が繰り広げられました。

大会には、木造高校、富士高校（静岡）、宇都宮高校（栃木）に加え、奈良、福井、埼玉、福島、岩手の県選抜チームが出場。各チーム5人による総当たりリーグ戦が行われ、手に汗握る熱戦の結果、福井県選抜が3年連続優勝を果たしました。木造高校は第7位の成績で、部長の竹内真友希さん（同高3年）は「格上相手の対戦が多かったが、チーム一丸となって励まし合いながら戦い、一人一人が成長できた。次は夏の全国大会出場目指して練習頑張ります」と話していました。



道路沿いのごみを拾う参加者



花壇に苗を植える児童たち

花を大切に育てます

花を育てる通じて「環境の美化」や「育てること」の大切さを学んでもらおうと市農業士会（太田英樹会長）が市内全小学校に地元で生産された1100鉢の苗を贈りました。

5月9日、柏小学校（猪股義仁校長）で行われた贈呈式には4年生44人が参加し、農業士会副会長の佐々木浩巳さんが「きちんと世話をすれば秋まで花が咲きます」と児童代表の小笠原このはさん、村上絢星さんに苗を寄贈。佐々木柳央さんが「いただいた花を大切に育てます」とお礼の言葉を述べました。その後、児童たちは正面玄関前の花壇に色鮮やかなマリーゴールド、パンジー、サルビアなどの苗を丁寧に植え付けていました。